

とどろけ

## 震災復興UTO『轟』プロジェクトの開催と様々な交流

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校

### ＜体育祭の中止にともない、新しい取組を検討＞

平成28年4月に起こった熊本地震の影響により、同年5月に開催予定であった本校の体育祭は中止を余儀なくされました。休校期間中にそれまで2回実施していた体育祭実行委員会を閉じ、さらに今後の年間行事の運営について職員で検討しました。そこで生徒の意見を取り入れるため、臨時登校日に当時の生徒会長とすでに決定していた体育祭各応援団の団長を交え、職員・生徒による話し合いの場を持ちました。高校3年生にとっては受験への影響が懸念されるため、最終的に今年度の体育祭は中止としましたが、生徒にとって体育祭は大きな学校行事であり、何か思い出を残すためにも、また区切りを付けるためにも、それに代わる取組を提案することとなり、新たな取組を企画するプロジェクトチームを立ち上げました。



生徒・職員の企画会議の様子



体育館での人文字の練習の様子



ドローン撮影の様子



和太鼓部の太鼓の合図で演技

### ＜「震災復興UTO『轟』プロジェクト」を発足＞

取組の名称は「震災復興UTO『轟』プロジェクト」と決定しました。今回の地震で全国の多くの皆様、特に福島県からの心遣いをいただき、本当に感謝の気持ちしかありません。プロジェクト名には、この思いを発信し、全国に「轟け！」という思い、今回被害を受けた轟泉水道（宇土の名所）にもかけて、また、「轟」の由来はたくさんの車が行き交う様子を表す、つまりたくさんの人が集まるという意味を込め、さらに、3つの「車」は体育祭の各団（3団）も表し、開催されなかったその思いもこの人文字でぶつけられたら、という様々な意味が、この『轟』という文字には込められています。多くの支援・激励に対する感謝を伝える手段として、生徒たちが作り上げる校章の人文字、及びパネルで文字を描く様子をドローンによって空撮し、その様子をDVDにして届けることにしました。体育祭の経験を活かし、メッセージの文面を考え、ICTを活用してパネル化し、



全校生徒による校章の人文字



感謝を込めたパネルメッセージ

### ＜感謝を込めた様々な交流＞

DVDの編集では、練習から本番を含めた人文字や応援パネルの取組状況のドローン動画を始め、主体となって動いた生徒のインタビューや、テレビ局の取材映像を加えて見応えのあるものを作成しました。感謝状、DVD、クリアファイルを1セットにして、福島県への修学旅行や防災リーダー育成プログラム等各地に出向く際に持参し、激励いただいた方々にお渡しし、感謝の意を表しました。また、その他の全国の各方面にも郵送しました。また、各学年や中学校の保護者会においても上映会を実施、文化祭においては、本プロジェクトのコーナーを設け、数々の交流を紹介しました。昨年度より交流している大韓民国益唐中央高校との交流研修では、開催当日の様子を亚克力楯にして進呈し、交流会の学校紹介では震災復興の状況をスライドで説明し、応援パネルメッセージの映像を交え発表しました。

このプロジェクトでは、震災を通して人と人とのつながりを改めて強く認識し、そこで抱いた感謝の念を形にでき、決して忘れることのできない、思い出深いものとなりました。

生徒達の「自分たちにできることはないか」「メッセージを伝えることができないか」という思いを込めて、パネルの制作、練習期間の撮影、本番の指示なども生徒が主体となって取り組みました。

練習期間中は雨により室内練習が中心となり、前日初めてグラウンドで行ったリハーサルでは、人文字をきれいに作成することができず、生徒会長、応援団長も大変苦勞していました。しかし、迎えた開催当日は全校生徒が一丸となって取り組み、途中の雨にも負けることなく、素晴らしい人文字を完成させました。その後、職員や放送部で映像を編集し、ご支援や励ましをいただいた各方面へ感謝を込めて贈るDVDを制作、さらに、当日の様子の写真で飾られたクリアファイルを作成しました。



感謝状を添えて各方面に贈呈



文化祭では交流コーナーを設置



韓国の高校に楯を作成し進呈